

令和4年度 第3回板橋区自殺対策地域協議会 会議録

会議名	令和4年度 第3回板橋区自殺対策地域協議会
開催日時	令和5年1月13日(金) 午後3時～午後5時
開催場所	第三委員会室
出席委員	<p>【委員17名】 西村委員、尾崎委員、税所委員、齋藤委員、中居委員、宮田委員、赤迫委員、臼井委員、桜井委員、佐藤委員、小関委員、笹委員、赤間委員、小林委員、井上委員、篠田委員、鈴木委員(欠席4名)</p> <p>【事務局4名】 折原健康推進課長、いのち支える地域づくり推進係長1名、係員2名</p>
会議の公開(傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)
傍聴者数	3名
次第	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 「いのちを支える地域づくり計画2025～板橋区自殺予防対策～」(仮称) 素案に対するパブリックコメント実施結果について</p> <p>(2) 「いのちを支える地域づくり計画2025～板橋区自殺予防対策～」(仮称) の原案について</p> <p>4 閉会</p>
配布資料	<p>次第</p> <p>資料1 委員名簿</p> <p>資料2 板橋区自殺対策地域協議会設置要綱</p> <p>資料3 いのちを支える地域づくり計画2025～板橋区自殺予防対策～(仮称)(素案)に対するパブリックコメントの実施結果(案)</p> <p>資料4 いのちを支える地域づくり計画2025～板橋区自殺予防対策～(仮称) 原案概要</p> <p>資料5 いのちを支える地域づくり計画2025～板橋区自殺予防対策～(仮称) 原案</p>
審議状況	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 議題(司会:会長)</p>

(1) 「いのちを支える地域づくり計画 2025～板橋区自殺予防対策～」(仮称) 素案に対するパブリックコメント実施結果について

(2) 「いのちを支える地域づくり計画 2025～板橋区自殺予防対策～」(仮称) の原案について

(事務局から資料3、資料4、資料5について説明)

(会長)

ありがとうございます。一気にたくさんの説明があったので皆さんもちよっと頭を整理して、大変かと思いますが、中身もしっかりと考えられていてオリジナリティーの高いところもありますし、基本的なこともしっかり押さえられていらっしゃるんじゃないかなというふうに感じました。最初にパブリックコメントに対して区の考え方ということで整理してくれていると思いますが、何か論点見て気になることとか、区としてもっとこういうふうに対処したほうがいいんじゃないかみたいなものがあればご意見いただきたいと思います。意見をくださった方が3名とはいってもすごく深く読み込んでいただいて、たくさんの意見を出していただいているかと思います。コロナが始まってから、なかなか自殺率は低下はしていないので、そこに関してはつかれると痛いところで、これからコロナに関係するところの対策を行っていきますとしか言いようがないところがあるかなと思います。それ以外のところで、前回も問題になったのはチェックということですね。PDCAのチェックをどうするんだということが前回問題になって、色々意見を出してもらって、概要版の表紙から数えて3ページ目のところに計画評価の新たな視点というものを作っていただきました。6つ因子を分けて、やったことが幾つそれに該当するかというようなことで、たくさん問題を満遍なくやっていこうとか、視点を広げていこうというようなことで、その原因、因子の軽減といった、何か関わってくるような事業であるということを考えてくださっていたかと思います。まずこの辺のPDCAについて、国にしても、どこでもこうやって評価すればいいというものがあるわけではないので、板橋ではこういうことを考えてみて、まず実行してみようというとても新しいことにやっていると思います。もちろん、やってみないとうまくいくのかどうかわかりませんし、とてもいい取り組みではあると思うんですが、その辺りで何かあるとか教えていただければ。あとは、ご説明にあったように、気づく、居場所、つながり、ゲートキーパーという、その辺りがとても大事なんじゃないかというパブリックコメントで区民の方のご意見があったかと思います。そのことも含めて、新規事業がより深められていたりするのかなと思いましたけれども、この計画の冊子だけでなく、毎年の事業策定の中に入っていきかなと思っております。皆さんから気になることと

か、もう少しこう答えていったほうがいいんじゃないかななどありますか。桜井委員どうぞ。

(桜井委員)

順番にいきます。例えば出張ゲートキーパーについて、いいと思うんですが、ただやりっ放しではいけないと思います。それをどうやって活用するか。例えば、それをどうやって地域の中で生かしていくんだというところまで。これは難しいかもしれませんが、何か追跡するような方法をやられたらいいのかな。それからコラム。これも大変いいと思います。ただ、これがこの計画の中だけで終わるのか、もっと区民の皆さんの目に届くような方法をやられたらもっといいんじゃないかというふうに考えました。それからもう一つ、この間、会長と私のやりとりで、載せるか載せないかという話がありまして、私のイメージなのですが、もしかすると私が間違っていたかもしれません。まず、目標自殺死亡率が13以下、自殺者数が70人以下というのがあって、そこから基本施策と重点施策に分かれています。それが五つの項目に分かれていて、例えば基本施策は76事業、それから重点は60事業、ここまで載っているわけですね。今度はこれを展開する、或いは実際に動かす、こここのところを私は言っていたんですけども。これが今ここでは見えないんですがそれをやるという前提でよろしいんでしょうか。

(会長)

ありがとうございます。なかなか難しいところですし、本当に議論の肝になるところだと思いますが、まず一つ目から、ゲートキーパー研修はやりっ放しではなくそのあとの活用とか、効果の評価とかそういうようなこともということでしたが、この辺は何か今考えてらっしゃることがあるか事務局の方でお返事いただけたらと思いますが、どうでしょう。

(事務局)

事務局からお答えさせていただきます。おっしゃられる通り研修してそれに満足するものではなく、修了者の方が引き続き地域の中で活躍できるようなものについても考えていきたいと検討しているところでございます。

(会長)

ゲートキーパー研修の話ですが、概要には書いていないですが、説明の中で基本的には一般区民向けというよりも支援者向けのものという話があったと思うのですが、対象によって活用の仕方とか、効果の評価は変わるとお思いますので、一般人向けであれば、それをどうやって日常生活で利用するのかということになると思いますが、支援者向けとなると、支援の中でどう生かしていくのかというようなことになってくると思うので、

その辺のイメージがあったら教えていただければと思うんですが。

(事務局)

今回は活躍が期待されるような団体の皆様を対象にという形になりますので、対象の団体の特性を踏まえた研修というものも検討しています。それぞれの団体に適したより効果の高いものを展開できていければと考えています。研修自体についても、講座が終わったから終了という形ではなく、地域につなげられる、受けた方が自分たちの仲間であったり、その組織の中でうまく情報を展開共有できるような出張研修に仕上げたいと考えております。以上でございます。

(会長)

桜井委員、これに関しては大丈夫でしょうか。

(桜井委員)

あとは事業があってその下の展開。それをやるのかやらないのかという話。

(会長)

コラムのことと、この事業後の展開ということですね。これについて何か事務局からお考えがあれば教えてください。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。こちらに関しては一番上に基本理念があり、その下に各施策、そこに紐づく様々な事業がございます。概要版の中ではすべての事業について記載していませんが、冊子をご覧くださいますと、この施策に紐づく事業を48ページからご紹介させていただいております。当課で行う事業もございますが、ここに載っているのは、板橋区全体の様々な所管が自殺予防に向けて取り組んでいる事業になります。これを実施するのはもちろんですが、毎年どのような形で実施され、量的な評価で何回、何人の方が参加してというものを振り返りますし、あわせて先ほどの新たな視点による質的な評価、この両軸でしっかり評価をしながら展開していくという形になります。いただいたコラムのお話もさせていただきますが、コラムに関して、なぜこういった形で計画の中で紹介するかといいますと、行政が作る計画書というのは、一般の方から見ると少しとっつきにくく、熟読してこのテーマを学ぼうというには少しハードルが高い文字の羅列が多くあります。それを少し解消していきたいという思いがあったので、計画の中で、写真や絵を使ったコラム形式でご紹介をしています。概要版も同じ狙いがあるんですが、手に取りやすいものを作って、計画の中身について、より知識を深めていただければと新たに設けている内容となっております。以上です。

(会長)

ありがとうございます。コラムについては、おそらくせつかくいいものがあるので、区民の皆さんが全員手にとるかどうかはわからない冊子の中にしかないということが残念だと思われたのかなと私は思うんですね。せつかく作ったので、概要版はもっとたくさんの方が見るかもしれませんが、或いはそういう他の媒体でこの分かりやすいコラムをもっと活用できないかというような意見だったのではないかと思います。

(事務局)

大変失礼しました。少し訂正します。コラムの中に載っているこういった取り組みについて、色々な広報媒体ございますので、そういったものを活用して、目に触れられるような方法を検討していきたいと思います。ありがとうございます。

(会長)

なかなかこの事業の目標とか展開というのは、これからどうやっていくのかとても難しいところで、展開していきながら、桜井委員のご意見を追加していただけたらと思います。

(桜井委員)

パブリックコメントにありますように、PDCAを回すためにはもっとちゃんとしたものがないといけないと思うんです。確かに1回目の地域協議会でPDCAを回そうというものがあったと思うのですが、それを回すためには、5W1Hというのが必ずどこかに入ってくるわけです。それでPDCAを回すんですね。なので、この事業の項目だけを見て、それがどう回るのかというのがちょっと理解できないんですね。前回私がもう少し言えばよかったんですが、それがここに載るか載らないかという議論だと思ったので私は載せなくてもいいんじゃないですかと言ったのですが、代わりにそれほどここに貼ってあると、ということでお話したつもりだったんです。私の言い方も悪かったと思いますが、各部門でやる時には5W1Hを必ず頭に入れて、それをもとにPDCAが回るようにすればよろしいんじゃないかと思いました。

(会長)

ありがとうございます。確かにそういう議論があつて、ただ結論という感じではなく、どんなふうに整理されてくるのかなという感じだったと思うんですが、なかなかこの一般的な冊子の中には入れにくかったのかなと想像します。実際のチェック場面としては大事なことを言ってくださっていると思うので、こちらは、こういう公に出るものではなくても、その各事業のチェック、結果報告というのは多分行政の中で行われていると思うので、その中には入れていただいて、例えばこの会議の場では報告していただくか、そんな工夫はできますか。

(事務局)

冊子の中で記載するというのが難しいところがあったのですが、評価の段階では西村会長からいただいた視点も含めてしっかり説明していければと思っております。

(会長)

例えば、各事業の報告の様式を、こういう会議の場で様式だけでも公開していただくことはできますか。何月何日、どんなことをやって、講師が誰でとか、参加者何名で、そして例えば事後アンケートがこうとか、どんなことを報告してもらって事業を評価していますというのが見えたら、きっと安心されるんじゃないかなと思います。やりましたということだけの評価だと不安ですね。事業全部、それも多分一つの事業で1回ではなく、何度もやるものに関して見ていたら、とても会議の時間が何時間あっても終わらないという話にはなりますが、こういう形で評価していて、その結果をこうまとめてありますという報告があれば、パブリックコメントでも同じようなご意見がありました。P D C Aをどう回しているのか見えないというのは、可能な限り出していただくとその辺の不安は取れるんじゃないかと思いました。この中には今回入れられませんでした。大変だと思うんですけど、そんな工夫があったらと思います。

(事務局)

計画評価になると個票であったり、フォーマットを使って各事業を追いかけていくという形になります。例えば今回の自殺対策計画は約100個の事業があって、すべてご覧いただくとなると相当な分量となってしまいます。しかし、どのような様式で各事業を評価しているのかという件については、皆さんにご覧いただく機会を作れるよう検討していきたいと思います。

(会長)

桜井委員大丈夫でしょうか。

(桜井委員)

はい。

(会長)

とても大事なことを指摘していただいたと思います。それだけでなく、冊子全部目を通すのはとても難しいとは思いますが、全体的に今説明を聞いた中で、或いはご自身がいつも意識されていることで、この中に入っているかとか、そういうことを確認していただいて、それぞれのご意見をいただきたいと思います。私から口火を切らせていただくと、一つだけお聞きしたかったんですが、概要版の自殺の動機に繋がる危険因子というのは、こちらは厚生労働省で出しているものの中から危険因子になるものを抜粋と

書いてありますが、厚生労働省が出しているものそのものではないですよ。どういう基準で、どういう順番で並べたというのは何かあったら教えていただきたいです。

(事務局)

あえて配置も整列させずバラバラに出しています。今回新型コロナという背景もございいますので、下の部分に新型コロナウイルス感染症の不安というものも追加で記載させてもらっております。

(会長)

わかりました。何となくこれを見て、一番最初にいじめというのが目に入り、板橋区ではいじめの自殺があったのかと思うこともあるのかなと思います。いじめの自殺は全国で見ても1桁ぐらいしかないかなり稀な自殺因子ではあるんですよ。もちろんそれを入れたらおかしいとかそういうものではないですし、日頃から気をつけるべきこととして入れてもらっているのは全然構わないと思うのですが、この重み付けとか、どれを選んでいいのかとか、そういうのがよくわからずこれ見ると、こういうことで自殺するんだと読まれてしまう可能性があるのかなと思います。このイメージがすごく大きくなってくると、ただランダムに並べたというのではなく、例えば板橋区ではこういう自殺の原因が実は多いというのがわかるのであれば、それがわかるように並べた方がいいのではないのでしょうか。もちろん気をつけていかなければいけないものというのを入れてもらっていいと思います。作っている方は恣意的ではないと思いますが、読む側としてはどういうふうに進んでいいのかなと感じる部分は実はあって、多くの人はこちらを見て、自殺というのはこういうものなんだとイメージしていることは事実なので、ちょっと気にはなっています。一般的にこのようになっているので仕方ないところはあるのですが、普段、私も他の人に自殺の話をする、子供の自殺はいじめがあるからいじめをやめれば自殺はなくなるでしょう、ということをやられたりして、そういう話じゃないんだけどなと思うのですが、全部そういうことに還元されて、この言葉にみんなが引きずられて自殺というのをイメージされている、と感じるんですね。できればみんなが色々細かいことに気をつけていきたいというようなメッセージがあるのであれば、例えば、頼れる人の不在とかそういうことをぐっと出したら、そういうことって大きいんだなと感じて、それならできるかなと。いじめを全部なくすということは自分は学校の先生じゃないので関係ない、と思うよりは、皆がこういうことも自殺の要因になっているんだ、それだったら何かできるかなと思われるようなことを入れるとか、何か意図があってもいいのではないかと感じました。ちょっと抽象的なお話で申し訳ないです。まず口火を切らせていただいております。ここで結論を出せることではないと

思うのですが、感想を言わせていただきました。尾崎委員からお願いいたします。

(尾崎委員)

事業数もとても多くて、事業の実施にしても評価にしても大変な仕事だと思うのですが、基本的な確認なのですが、例えば区民の方がこの冊子を見るとすると、ホームページにアクセスして見るという形になりますか。

(事務局)

はい。ホームページで計画冊子をご覧くださいませし、概要版については、配布場所について現在検討中なのですが、無料で配布する予定です。概要版についてもホームページでデータも公開します。

(尾崎委員)

パブリックコメント9件貴重なご意見いただいたのですが、実質3名ということで、もちろん自殺の問題について区民の皆さんの関心の重さはそれぞれ違うと思うのですが、なかなかこれを区のホームページにアクセスして、計画冊子のPDFをダウンロードして見るというのは結構な作業であると思いますし、まず知っていただくために、例えばコラムについて、専門職向けでもないですし、一般の人にわかりやすいように書かれていると思うので、そういう素材に関して、どうしたらいいかちょっとわかんないのですが、各戸に配布する何か広報のようなものがあると思いますが、そういうところに案内を入れたりとか、広報の中のある部分は自殺に関連した記事をこの冊子から抜粋したりというのでもいいかなと思います。せっかくこれだけのものを作ったわけですから、一般の方に知ってもらうのは大事なことだと思います。そういう形で目に触れやすいやり方を考えもらえたらと思います。ホームページにアクセスして開いてというのはなかなか大変だと思うので、もう少しパッシブで目に入るようなものを考えてもらえたらと思います。

(会長)

ありがとうございます。そういう意味では概要版というのは結構大事になるのかなと思いますし、わかりやすい材料をどう活用していくか。冊子を完成させることも大事ですが、どこを抜粋するかということも大事なことなのかなと思いました。それでは税所委員お願いいたします。

(税所委員)

欠席ばかりで前回前々回とダブることがあるかもしれませんが、一応今日準備してきたことをお話ししたいと思います。まず、この目標として自殺死亡率13以下となっておりますが、冊子の図10、11を見るとすべて自殺者数ということなんですね。そうする



と人口の多い区と人口の少ない区でかなり違いが出てくると思います。例えば図9で板橋区は今4番目、19.3となっておりですが、人口順にすると世田谷区が一番最初に来てしまうということで、やはりこれは人数というよりも、たとえば20歳から29歳であれば、20歳から29歳で10万人に対していくつ、そうしないとなかなか本当の比較ができないのではないかという印象がありました。以前の会議で同じようなことが出たのであれば失礼します。順番でやっていきますと、この冊子の17ページにあることなのですが、自殺の原因としてどういうものが多いかということを見たときに、そのほとんどが健康問題、それ以外はあまりはっきりしなくて不詳が多いということなのですが、この17ページの表1でどういう経緯で、どういうふうに自殺を行ったか表が出ているわけですが、大抵うつ状態と出てきます。こういった方々の自殺の原因として、うつ状態つまり健康問題としてカウントしているのか、その一番初めにあるきっかけ、失業であるとか家族問題であるとかそういったものでカウントしているのかそれがちょっとわからない。自殺の原因を考える上で、すべてうつ状態にすると対策として誤りが出てくるという感じがしました。次は冊子の21ページなのですが、この図の読み方として、自殺対策をするのはどの場所がよいか、或いはどういう人を対象とした方がよいかということなのですが、21ページの図19で、自殺対策を推進した方がよいと思う地域の機関はどこだと思いますかという問いに対して、小学校中学校、高等学校高等専門学校、これは小学校中学校の生徒は自殺する割合が高いんじゃないかと、ですからこういった人に、対策を講じたほうがいいのか、そういう意味だと思うのですが、その下の方にNPO法人等の民間団体、警察消防、民生委員というような項目が出てくるわけですが、そうすると今度は意味合いとして、こういった人々に対策を講じて欲しい、というそういう意味合いにとれてしまうんですね。警察内部消防内部で、その中で自殺する方が多いから自殺対策を推進したほうがいいのかと答えているのかなと、ちょっと上の方と下の方の答え方の意味合いが違うんじゃないかという気がしました。その次の図20の問いでは対策を推進した方がよいと思う対象と書いてありますので、ここは男性・女性とこういうふうになるわけですが、ここには警察官であるとか消防官、或いは民生委員、そのような言葉も出てこないのです、おそらく図19のまとめ方、或いは回答の仕方に何か問題があったのかなと考えました。続きまして個別の施策ですが、2つだけ。1つは検索連動型広告というものです。非常に感激したというか、私としては全然思いも付きませんでした。いわゆるネガティブワード、自殺などを検索したときに、むしろそれを防止するようなページが出てくるということは、そこで思いとどまらせるということで非常にいいことだと思いました。できればそこをクリックしたときに、今度はそこ

から先どういふ対処をするとか、どういふメニューを持って自殺企図されている方にアプローチしていくか、そういった部分も今後充実させなければならぬと考えております。さらにゲートキーパーですが、この区の方考え方というところで、省庁・区の職員の方も自分もゲートキーパーの一員であるという意識を醸成すると書かれていますが、これも非常にすばらしいことで、そしたらもっと広げてちょっと大きさをですけど、区民全員がゲートキーパーになるようなそういう施策をする方が、まさか自分の隣の人が自殺をするとは誰も考えていないわけですので、自殺する人が周囲にもいるんだということを考えていただく。繋がらないかもしれないのですが、いろんな形でゲートキーパーになってくださいというようなことを区民の方に周知するのがいいのかなと思います。以上です。

(会長)

はい。色々ご指摘ありがとうございます。最初のところから確認していきたいのですが、図 19、これは自殺者数順ではなくて、10 万人当たりの自殺死亡率の順に並んでいるのですが、何人の軸の方が左になっていて、自殺率が右側になっているので、今おっしゃられたように読んでしまう方が多いかなと感じました。なので、これ軸逆にしたほうが間違いがないのではないのでしょうか。この順番の 4 番目というのは人口の調整をかけた方で、それで自殺率が板橋区は 23 区の中では 4 番目に高いというような意味合いにはなっていて、自殺の人数でいくと、6 番目ということになると思うのですが、おそらく勘違いされることがあるかなと感じました。次が図 17 のところで、自殺の原因をどう判定しているんですかということも含めてなのですが、これは警視庁が出したデータですか。統計は二つありますよね。

(事務局)

警察統計をもとに、厚生労働省で特別集計したものです。資料に出典について掲載させていただきます。

(会長)

そうですね。なかなか区のほうで全部見直すということは難しいと思いますが、逆にどういふふうに書いているのかということはおわかりようにしたほうがいいのかもしいですね。重複回答可なので、例えばうつ状態があつて、かつ経済問題があれば両方にカウントされるというようになっているはずで、税所委員が言われたようにうつ状態というものだけをとってしまったらほかの要因が隠れてしまうのではないかとすることは多少は緩和されているはずですが、どうやってそれをやっているのかということはおわかりないところでしょうか。なかなか自分のところで取っている統計ではないので説

明しにくいというのはよくわかるのですが、確かに見る方としては不詳がこんなに多いのかとか、何でもうつ状態ということだけにとられてしまうのではないのかと思われてしまうところなのですが、そのきっかけになっている原因がある場合はそちらもカウントはされていると思いたいです。わからないのですが、税所委員、これが区で取っているデータではないということで限界があるのですが、大丈夫でしょうか。

(税所委員)

ただ、何でもかんでもうつというように片づけられてしまうと、対策も大変ですし漏れが出るかなと思いました。

(会長)

なるほど。例えば、もともと精神疾患を持っている方が、たまたまお金を全部使い果たしてしまって、直接的原因としては経済問題で亡くなったときに、経済問題ということだけにカウントされると、それはそれでまた違う見方をされるというのがありますよね。尾崎委員、何か感じることもあるのかなと思いますけども。

(尾崎委員)

基本的に複合的だと思いますけれども、最終的に何が原因で、最終的にうつ病的になって亡くなってしまっても、時間の経過によっても違いますし、どうカウントするというのは難しいところですよ。自殺の理由をちゃんと調べるというのはやはりとても難しく、研究で、亡くなった方のご家族に聞き取り調査するような方法もありますが、それでもなかなか実態はわかりにくいところがあるので難しいです。誤解しないように断り書きを入れるということはしてもいいかもしれないですね。

(会長)

確定することはやはり周りから見てできることというのは少ないというか、本当のことを本人に聞いてもわからないかもしれないというぐらいのことなので、わかる範囲、できる範囲で誤解を与えないということはできるかもしれないですね。次が 21 ページの図 19 のところですよ。自殺対策を推進した方が良いと思う機関ということで、小中高というのがすごく多いけれども、それは小中高で自殺が高いという意味ではないです。実は小学生は大人に比べたら 100 分の 1 ぐらいしか自殺率はありません。中学高校でもやはり大人に比べたら何分の 1 というようなレベルになってくると思うので、ここで自殺が起こっているというよりはちゃんと教育したほうがいいのか、そういう意味合いなのかとは思いますが、この問いの仕方がそう思われてしまうのかなと思いました。次のところは、対象としてですね。自殺対策の対象はどのような人かというようなお話ですが、確かにわかりにくい面はあると思うので、注釈があったりとか、説明があったり

した方がいいと感じました。何をもちましてこの問いを答えたかというのはちょっと聞いてみないと、なかなか難しい質問だったのではないかと思います。子供がたくさん自殺してるという誤解を与えてしまうのではないかと思います。そういうことで税所委員大丈夫でしょうか。

(税所委員)

はい。

(会長)

そして、検索連動型の広告ということで、私の所属しているメンタルケア協議会では東京都のSNSによる自殺相談をやっているのですが、やはり検索ワードは「死にたい」とか「死に方」そういうもので入ってくる人が多いので、これは有効だと本当に思います。ただ問題は、それで相談に入ってきたとしても、相談の出口の方がちゃんと整備されていないければ、相談窓口につながれても、例えば、板橋区でこういうところに相談してねとか、学校でこういう相談しようねと言っても、そちらで受けとめてもらえなければ、LINE上でいくら相談をしても解決には至りませんので、入口戦略としては非常にいいけれども、同時に出口をきちんと整備していかなければ不十分かなと思いました。ありがとうございます。あとは区民全体のゲートキーパー研修ということですね。事務局から何かありますか。

(事務局)

様々なご意見ありがとうございます。お話いただいたとおり、注意書き等を入れることで間違った理解にならない工夫について検討していきたいと思います。検索連動型広告については都が行っているLINE相談を表示する想定であります。東京都と連携して行うような事業となりますので、都とも情報を共有しながらいい相談ツールになるように進めていきます。ゲートキーパーについては、すべての区民の方がゲートキーパーとなれば、お互いに気づき合える社会になっていくと思いますので、今回は新しい出張型のゲートキーパー研修というものを始めて、最終的にはそこをめざしていければと思っています。いろいろ参考になるご意見、ご指摘をいただいて助かります。

(会長)

齋藤委員お願いいたします。

(齋藤委員)

概要の目的のところ、生きることの阻害要因（自殺のリスク要因）これを減らして、生きることの促進要因（自殺に対する保護要因）を増やすということが重要ですということが書かれていて、危険因子は書かれているのですが、保護因子の記載がないので危

危険因子と保護因子は両方書いておいて、できるだけ危険因子を減らして保護因子を増やそうにしましょう、としたほうがいいと思いました。最終ページのつながるネットワークのイメージというところで、本当に区民全員の方がゲートキーパーになれば、夢のようですがいいなと思います。悩みを抱えている方を支援するためにいかに外部支援機関と連携していくということが本当に大切だと思いますので、その連携を具体的にさせていただけたら嬉しいなと思います。出張ゲートキーパー研修も非常にいい取り組みとしますので、推進していただけたらと思います。

(会長)

ありがとうございます。事務局から説明ございますか。

(事務局)

連携の具体化の部分でまずはネットワーク図について今回新しくイメージを出させていただきました。いずれは様々なシーンごとに、支援していくにはどういった繋がりネットワークがあるのか出していく必要があると思っております。今回は初めてネットワークのイメージに着手したところですが、まずはこの記載でご理解いただければと思います。保護因子の部分については、色々な資料を見ますと、危険因子の部分については参考となる文献があるのですが、保護因子の部分で参考となる情報がありません。しかし、今後検討が必要な部分ではありますので、生きることを促進する因子に関しても、何か見やすい形で計画をご覧になる方に伝わるよう研究していきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。一般の方のゲートキーパーですが、理想としてはみんながなればいいのですが、やはり支えられる力というのは人によって違うので、周りのサポートがないと、実際に悩みを抱えている人に出会って何とかしてあげたい、けどゲートキーパーをやろうとした人がつぶれてしまったり、一緒にきつい方向に行ってしまうということがないように、周りの支援をしっかりとっておかないと厳しいなと思うところはありますよね。続きまして中居委員お願いいたします。

(中居委員)

概要見させていただいて、悩みを持たれた方々に対してどうやって適正なケアをしていくか、というところで新たに検索連動型広告の活用や、可能な限りやれることをやるというような計画になっていて、そういう点で本当にすばらしいなと感じております。司法書士会でやっている事業で、いのちを守る何でも相談会という相談事業があって、今毎週1回、大体面談か電話でやっているのですが、今年度はそれほど相談者数が大きく伸びていないというのが現状でして、それが実際に悩みを抱えられた方が減っている

のであれば嬉しいことなのですが、おそらくそういうわけではないと感じております。ということは、事業そのものが知られていないということになってしまうのかなと。やはりかにかいい事業を計画しても、知ってもらってそれを活用しようとなってもらわないと意味がないことですので、そういう点でかにか知ってもらおうかということは本当に重要な点かなと感じております。計画冊子の中で、コラムを入れていただいて、少しでも手にとりやすくなっていて非常にいいのかなと感じております。これはもしかしたら私の個人的な感想なのかもしれないのですが、コラムは多分、計画冊子の難しいことが書いてある中で、比較的少しやわらかいことが書かれているようなものだと思うので、コラムの一覧にあるタイトルをもう少しキャッチーにできないかなと感じた次第でした。ただ本当にそういうコラムや様々な工夫がなされていて非常にいいと感じました。

(会長)

ありがとうございます。司法書士会では本当に先進的な取り組みをされていると思うのですが、利用者が増えていないというのがとても残念に思いました。このインターネット検索連動型広告で、相談窓口を表示させるのもいいのですが、例えば板橋区の自殺対策のページを連動させて、そこに今やっているもの、例えば、今月は何日に司法書士会の相談会がありますというような情報がぱっとまとまっているページが見られるとか、そういうものはいいかなと思いました。何でもかんでも相談窓口にくると、そこから板橋区でやってるものをもちろん案内はするのですが、私たちも全部を把握していないものですから、せっかくいものをやっているの、たくさんの方に利用してほしいなと思いました。

(事務局)

検索連動型広告は新しい取り組みになります。確かに表示させる情報については、ご意見いただいたことも非常に良いと思いましたので、仕様を詰める段階で、ご意見を踏まえ検討したいと思います。

(会長)

ありがとうございます。宮田委員お願いいたします。

(宮田委員)

高齢者の中では、包括さんからサービス事業所の介護保険のほうにつながると虐待だったりとか、ひきこもりのご家族がいたりだったり、介護疲れしているご家族との関りもあるのですが、なかなか自殺をするような方と直接関りありません。しかし、幼児を抱えた30代のお母さんが自殺したという話を聞いたりすると、やはり一般の方がゲートキーパーになるのはとてもいいと思います。たぶん一般の方は、概要にもあるのです

が、危険因子をストレートに見て、うつの方にあなたうつだよと直接言ってしまったりとか、ひきこもりのお子さんがいるお母さんにストレートな言葉をかけたりといったことがあるので、マイナスの因子だけではなく、その方がプラスになるような、相談する人がいるとか、喧嘩する相手、愚痴を言える人がいるとか、あとは喧嘩する友達がいるとか、そんな声かけができるようなものが記載されているといいと思いました。あと一般の方の目に触れるものだったら、5項目ぐらいで質問のようなもの、高齢者の方だと最近転んでいませんかとか、簡単な項目の日常の質問みたいなものがあるのですが、そういったものを一般の方にも質問形式で行って、私大丈夫とか、やばいかもと思ったら、ここへ連絡、相談してくださいみたいに繋がるといいのかなと思いましたので、その項目もあっていいのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。誰でも使いやすくあまり侵襲的でなく、質問できることやそういうヒントがあると一般の方はやりやすい面がありますよね。ここに書いてあるような重いことをストレートに関わろうと思うとなかなか難しいところもあるかなと思いました。

(事務局)

参考になるデータがあるといいのですが、やはり促進因子というのは人によって違う部分があるため、板橋区独自で何か出すのが難しいところでもあります。調べを進めてみて何か出せるものがあればいいですが、そこに関して今即答でこれを載せますという回答は難しいところでもあります。検討させていただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。委員の方でも何かこんなのがあったよみたいなものがあれば事務局側に教えてもらおうと参考になるかなと思いました。ありがとうございます。赤迫委員お願いいたします。

(赤迫委員)

自分も宮田委員と同じ入院の相談業務の人間です。意見というか感想になってしまうのですが、ゲートキーパーというものを活かす方法をどのように仕組みづくりをするのか。高齢者の部分で認知症サポーターということを区のほうでもおとしより相談センターでも色々な養成講座というのを行ってはいますが、いまいち活かしきれてない。区民の方に認知症の方の状況を知ってもらおうということのを盛んに行っているのですがということ。もう1点、私の方で考えたのは高齢者虐待という中の一つで、セルフネグレクトだったり、自殺に近いものに当たるのかなと感じたところですから、自分に必要

なお世話を行わないということで、死に至ってしまうような方、そういうところで私たちの役割であったりということが多いのかなと改めて感じました。おとしより相談センターをどのように知ってもらおうのかというのも課題で、せっかくこういう施策や事業計画があっても、区民の方に知られていなければどうしようもないということを思って、改めて自分たちの窓口置き換えて、包括支援センターがどういったことをやっているところなのかということはどう周知していけばいいのかというのを、改めて計画に沿って考えたときに自分たちも考え直さなければならぬと感じた次第です。僕は冊子の48ページに出てくる基本施策のネットワークの強化だったり、担当課におとしより保健福祉センターと書いてあるひとり暮らし高齢者見守り対象者名簿事業だったり、ウェルネス活動推進団体支援事業、地区ネットワーク会議といったところが当てはまるような状況です。前に戻ってしまっただけで恐縮なのですが、パブリックコメントに上がっている、居場所というのと気づくということがやはり大きなキーワードで、今社協さんを中心として、おとしより相談センター、おとしより福祉センターで、地域の方で孤立してしまっている方、気づいてあげられない人にどう気づいていくのかということを取り組んでいるような次第であります。いろいろ話が飛んじゃうのですが、感想というか意見ということでそういったことを考えました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。いろいろやってらっしゃることが周知されていないということは、残念なことだと思うので、やはり先ほどのように何か工夫できると良いですね。コラムだけじゃなくいろいろなものを広報に少しずつ載せたりとか工夫ができたらいいかかなと聞いていました。あと、セルフネグレクトの問題というのは本当に大きくて、なかなか手がかからないというか、難しいと感じることが多いのですが、専門的な人というよりも周りの人の力というものもやはり必要なことだと思いますので、地域の方でそういう取り組みや理解があったらいいなと思いました。白井委員お願いいたします。

(白井委員)

私どもは昔でいえば精神障害者の支援ということで活動しております。今回の計画もすごい力を入れてくださっているのですが、相談事業、この相談事業というのはすごく重要だなと考えております。すごく時間がかかるんですね。結局、自殺というのはちょっとしたところで行ってしまうのですが、その前に自分の吐き出したいことを全部吐き出してもらって話があった次の日もまた話そうということで自殺が伸びるんです。そのうち聞いてくれる人がいるということで信頼関係ができるというのはかなり大きいと思います。私どものような事業所、要はJHCさんとか色々なところでも、相談事業には



すぐく力を入れているのですが、職員の人的パワーというのがすぐくかかると思うんです。でも、結構話を聞いてもらえたということ自体が良くて、ずっと聞いてもらって、事業所に通所してくれるとかそういうことが進んでくることによって、結構助かったとか自殺しないでよかったとか、やはり話を聞いてくれることによって抑えられるのかなと思います。精神障がい者の方の場合、大量服薬ということがよくあって、それが抑えられて結局飲まずに済んで、1日置くことによって落ち着くということもかなりあります。結局自分の中で何が問題なのか分からなくて、ただ辛いということが多くなってしまって、精神を病んでしまって自殺してしまうという方が多いです。家族の方は、今までのやりとりでわかっている部分があるのですが、だんだんその家族の方がいらっしやらなくなって、相談するところがなかったりという場合も出てきます。精神障がい者の場合は家族会というのはかなり頑張ってくれていて、そういうところでよかったなと思います。これからゲートキーパーとして普及していくときに、こういう言葉を言っている人は自分で意識しないけれど、自殺してしまう人がいるのではないかということがピンと来てくださると嬉しいなと思います。どういうものが当たるか、人それぞれ違って、やはり話の経過ですからそういう意味で本当に相談事業というところを重点でやってもらって、その経験とかプランとかそういうことが話されているといいなという感じがしました。本当に計画作りのためにちゃんと一生懸命やって整理してくださっていると思いますが、もっとそういう意味じゃ、下世話なところのお話が結構相談業務をやっている場合があったりすると思うので、そういうところのキーワードみたいなのをあとちょっと発見できると、これからゲートキーパー研修をしていくときにいいんじゃないかなという気がしました。相談の電話対応の仕方とか、どういう言葉が必要かというのをコラムで書いていただけたらもっと充実した計画になるのではないかなというのが私の感想です。分析も本当に緻密にされているということはわかりましたが、これ読んでどう活用できるのかということになると、すぐく勉強しなきゃいけないなというのがあって、ちょっとそういう下世話な部分と、そこに繋がる部分をあと少し皆さんで考えて書いていただくと、ちょっと違った雰囲気ですけど、行政がつくる計画書プラス、例えばゲートキーパーのための工夫みたいなハウトゥー本みたいなそういうものが一つ、別冊でも何でもいいですが、あるとうれしいなという気がします。電話相談も現場ではやっぱり違ってきますので精神関係の人と自殺の関係がわかると一般の方がもっと分かりやすいかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。相談支援事業所は最前線で相談を受けてくださって、水際で

もやったださっているし、長い支援もやったださっていて、そういうご経験があると思いますし、たくさんの命が守られているということを知っていただきたいと思いました。おっしゃる通り、気をつけなければならない言葉とか、逆にかけてあげる言葉、無難な言葉で一般的なものとかが少しあると、どうしたらいいんだろうというときの助けにはなるのかもしれないと思います。例えばそういうコラムの一つや、現場の生々しい部分というのがあるとすぐに役立つのかなと思いました。今回入れるのは難しいかもしれませんが、とても参考になるご意見だったと思います。それでは佐藤委員お願いいたします。

(佐藤委員)

私どものほうは地域におけるネットワークの強化ということで、3月と9月に板橋区と一緒にキャンペーンを行ってる時に、広く区民の皆様とかに作っていただいた小冊子を配布して、入口の部分だけになってしまうかもしれませんが、そこから自殺防止の協議会としてこういった取組をしているということで広げていきたいと、私の個人的な考えにはなってしまうのですが、そのように感じております。

(会長)

ありがとうございます。私たちメンタルケア協議会は、震災後から10年ぐらい、コロナが始まるまでは毎年JRと一緒に駅での声かけ活動をやっていました。もちろんその時の利用者というのは限られていますが、本当に鉄道会社の方々が、そういうものに興味関心を持ってもらって、一人一人の社員さんの意識が毎年変わっていくのを感じて、なので東武さんの方もそういうことを続けてやったださっているというのはすごくいいことだなと感じますし、ぜひ広げていただきたいと思いました。続いて小関委員お願いいたします。

(小関委員)

先ほども意見として出ていましたが、事務局の皆様これらの資料作成お疲れ様でした。また、手に取ってもらいやすい工夫ということ概要版も作られたということでお疲れ様でございます。私の気づいたところということでお話しさせていただこうと思います。概要版にありますが、DX戦略の連動型広告とか、あと尾崎委員、中居委員もおっしゃいましたが、いかにこの事業を知ってもらうかという、掲げた計画がうまくいくように皆さんに協力していただけるように、色々な方に知っていただいて、色々な方に協力してもらうということがやはりとても重要だと改めて思ったところでございます。これらを進めるにあたって、自身も労働基準行政を担う立場なのですが、いろいろ施策をやるにあたって皆様に知っていただくのは、基本的には新しい方に知っていただくとい

うことになるのですが、場合によっては広く国民の皆さんにも知っていただくという意味で、自治体さんとか、労働関係の団体さんが多いのですが、それ以外にも各種団体さんにこういう施策をやっているんですよと、特に安全週間とか衛生週間ですね、実施も含めて、職場における安全とか健康管理のきっかけを知ってもらおうという意味で、そういう週間があるんですよということで色々取り組みをしていただくというのを広報しています。なので、概要版の最終ページのところにもありますが、ネットワークのイメージというものを作っていますので、これら関係団体に広報の依頼をしてみるとか、私なんか安全週間、衛生週間の関係で管内の自治体さん、板橋区さんもそうですが、広報依頼させていただいて、なかなか載せていただくことも少ないのですが、たまに載せていただいたりとか、あと載せてもらいやすいように、なるべく短い文章で伝わりやすい工夫をしながら、お願いをしています。一番は予算がかけられて色々な広告をうって、CMに流すことができればいいのですが、それが難しければ行政機関同士で連携してこういう広報も活用できると思いますので、ご検討いただくといいのかなと思います。他の自治体さんなのですが、ちょうど自殺予防月間があったと思うのですが、これに関して、自治体さんから監督署のホームページに広報依頼を受けて、自殺対策にかかるリンクを張らせていただいて、お互いに広報するというような取り組みをしましたので、こういった協力等は監督署でもできますから、そういった連携もできるといいかなと思います。これも他の委員の方からご意見ありましたが、広報誌にコラムを載せたりするのはすごくいいなと思いましたので、一度に全部載せちゃうとネタが尽きてしまうので、委員が言われたように各号に一つずつコラムを載せていくというのはすごくいいなと。いろんな人に見てもらうのにもいい取り組みだと思うのでぜひ進めていただくといいのかなと思いました。この概要版なのですが、自分もよくこういう媒体を作るので、気にしているところなのですが、こういうリーフレットというのは基本4の倍数で作るんですよ。ホチキス止めしたりというのはやはり省きますから、一番いいのは4ページだと思うんです。ページ数が増えて、例えばホチキス止めや糊付けが増えるとその分コストもかかりますから、コストのことも考えて構成とか、例えば見開きでかなり大きくスペースをとっていますけど、もう少し配置を考えて、内容も少し圧縮して、増えた2ページ分をここに入れるとか。あとはコラムなんかも、もしページ増やして8ページにするのであれば、2ページ余裕できますからそういうところに一括でコラムだけをまとめて載せるとか、そんな工夫もできるのかなと思ったところでございます。以上です。

(会長)

ありがとうございます。本当に広報はすごい大変だなと思います。色々な情報が飛び

交っていて、必要な情報がなかなか得られないということもあると思うので、ぜひ板橋区のホームページに相互リンクを貼るのもいいのかなと思って聞いておりました。こういう広報の6ページって非常にもったいないといえますか、8にするのであれば、さっき言っていたようなコラム等で大事なことを入れてもいいのではないかと思います。それでは笹委員お願いいたします。

(笹委員)

内容を拝見しまして、概要版で大まかなところが理解できるようになって、それで詳細の方があるというのはわかったのですが、せっかくなので、詳細についてはどこで見ることができますか、どこで入手できますみたいなことが概要版にあるともう少しわかりやすくなるのではないかなということを感じました。詳細の方の33ページ以降のところでは計画事業と推進事業があって、その中で軽減できる危険因子というのを明記していただいている、これがわかりやすくていいと思うのですが、事業がたくさんありますので難しいかなと思うのですが、事業ごとになっているのを、例えば因子ごとに、因子に事業をくっつけるというものがあっても、目次的な形でわかりやすさという意味でいいのかなと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。確かに、概要版から本編の案内がないですね。あと、わからなかったのですが、因子ごとに偏りはありますか。6個のうちどの事業にも入っているものもあれば、少ないものもあるのかなというところで、これをやるにはどれがどの事業だという逆引きができるといいなというご意見だったかと思います。何か事務局からありますか。

(事務局)

年に1回、事業報告、評価する機会がありますので、その際に因子から見た事業という見せ方についても検討していきたいと思います。ありがとうございます。参考になりました。

(会長)

次に赤間委員お願いいたします。

(赤間委員)

冊子の図19のところでは、自殺対策を推進した方がよいと思う地域の機関はどこだと思いませんかの部分でお話あったかと思いますが、警察は110番で死にたいというお声が入ったときに、私たちが行ったり保護したり、お話を聞く機会というのが結構あるので、そういうことで警察なのかなと思っております。警察の方でお話を聞いて、民間団

体や NPO 法人といった関係団体に引き継ぐことになると思うのですが、まずは警察の方でとっかかりがあったりするので、こういう回答になっているのかなと思いました。警察の方でそういったことを認知すると、実際に自殺が行われるというときには、23 条通報という形で入院をさせたりということはあると思うのですが、実行後やはりなかなかそういうのもできないというところで、皆さんご協力いただきながら、自殺を食い止めるための一助として継続していければと思っています。以上です。

(会長)

ありがとうございます。本当に警察の方には助けてもらっていて、実際動いてもらう現場に駆けつけていただくのは警察の方ですし、そこで結構話をしっかり聞いてもらうことで落ち着くという方もいらっしゃる、本当に頼りになるなと思っています。警察の方が言うことは皆さんしっかり聞いてくださるので、その後、必要な地域の方につなげていただけるとありがたいなと思います。そういう連携、ネットワークが広がっていったらいいなと思いました。それでは小林委員お願いいたします。

(小林委員)

まず令和 4 年の救急活動状況というのが速報値でまとまりましたので、いつものように自損行為に係る救急の現状についてご紹介させていただきます。東京消防庁管内では、令和 3 年度から令和 4 年の自損による救急は、前年度より約 14%の増加となっております。板橋消防署管内で見ますと、18%増加ということで、社会が動き始めてより対策が必要な所なのかなと思います。計画の方なのですが、こちらについては、計画自体は本当に非常に良いものと感じております。各委員の皆様からありましたが、やはり一番難しいのは住民への周知、広報の部分だと思います。区民の皆さんに近い、そういう広報媒体というのは区役所の方が持っていると思うので、例えば消防署なんかも、危機管理部がやっている防災メールに情報を流したりしています。そういったところもフル活用していただければと思います。また、消防のほうも積極的に協力していかなければいけないなと思っていますので、広報についても協力させていただきたいと思っています。以上です。

(会長)

ありがとうございます。自損で 14%増ということで、実は昨日別の地域でも同じような会議があったのですが、そこでも自殺そのものはそこまでは増えてなくても、自損の救急搬送が非常に増えていて、救急病院の方が結構大変なことになっているという話も聞いていたので、やはりそういうところ運ばれてきた方たちを、そのあとどうするというのが非常に大きな課題になってくるのかなと思いました。井上委員お願いいたし

ます。

(井上委員)

感想ですけども、ゲートキーパーという言葉が私は重いと思いました。私の職業柄、教え子が自死したといったことがあるのですが、自死した本人よりも実は周りが傷つくんですね。なんで気づいてあげられなかったんだらうとか。私の教え子でもいまだに言います。あのときなんで救えなかったんだらうと。ゲートキーパーって重いんですよ。理念としてすごく分かりますし、みんなが気づいて明るい板橋区を作ろうというのはいいのですが、ゲートキーパーとして名前をつけて、救えなかったときにその周りの生きている方がどういうふうにか考えるのかなと思ったときに、今までの話がちゃぶ台返しみたいになる話で申し訳ないですけども、ちょっと考えてしまいます。今生きている人も大事にしなくてははいけなかなと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。大変大事なところをご指摘いただいたと思います。実は支援者のそこところが非常に大きくて、訓練を受けているものであっても、できなかった時のその後のフォローのところ、大変なのですが、ましてやそれが訓練を受けていない人であれば、どれだけショックを受けるかということを考えなくてははいけない。やはりゲートキーパー研修をやれやれという話ではなくて、そういうことも含めたものがゲートキーパー研修なかなと思っていますので、開催の仕方や中身についても考えていかなければはいけないと思います。それでは篠田委員お願いいたします。

(篠田委員)

いろいろご意見ありがとうございます。区のほうでもこの計画に基づいて、自殺を減らしていくということが大事なのかなと思っているのですが、先ほども自傷の話がありました。そこに至るもっと手前のところからケアしていくことが大事だというような話もあったかと思います。パブリックコメントからも、身近に支えてくれる人がいるんだということ、区民の方が思ってくれるようなまちづくりというのが必要だと思っていますので、色々な事業をやる中で、お互い支え合っているというまちにしていきたいなと感じました。

(会長)

ありがとうございます。

～ 一部省略 ～

(会長)

最後、副会長の鈴木委員の方からご意見をお願いいたします。

	<p>(副会長)</p> <p>とても参考になるご意見を聞かせていただくことができました。ありがとうございました。区はいろいろな計画を作っていますが、計画を作るのは一生懸命で、今日皆さんからご意見いただきました周知というところまでなかなか意識が及んでなかったと思っています。区がやっている自殺対策を皆さんに知っていただくということは非常に大事なことだと思っておりますので、周知についても意識を向けて考えていきたいと思えます。ありがとうございます。</p> <p>(会長)</p> <p>時間が少し延びてしまって申し訳ありませんが、これで皆さん大体言いたいことは言っていたかと思えます。これで令和4年度第3回自殺対策地域協議会を終了させていただきます。それでは事務局にお返しいたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>閉会の挨拶</p>
<p>所管課</p>	<p>健康生きがい部 健康推進課 いのち支える地域づくり推進係</p> <p>(電話：3579-2311)</p>